令和３年度　自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立多治見北高等学校

学校番号	４４

Ⅰ　自己評価

学校教育目標	（１）基礎的・基本的な知識・技能の修得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら考え学ぶ意欲や態度を育てる。 （２）豊かな人間性と情操を養うとともに、自らの行動に責任をもち主体的に判断し行動する態度や、積極的に自己を活かす能力を育てる。 （３）自己の在り方や生き方を考え、主体的に自らの進路を考える能力や態度を育てる。 （４）地域社会への理解や関心を深めるとともに、国際化に対応できる能力を育てる。 （５）教職員が業務内容を不断に見直し、働き方改革を進める。

＜１＞ 評価分野①：　教務

1　今年度の重点目標と取組・実践内容

1　重点目標	ＩＣＴ導入と授業改善を両輪とする、確かな学力を定着させるカリキュラムの研究開発。
2　重点目標達成のための取組	(1) ＩＣＴを効果的に利用するスキルの向上。 (2) 生徒の主体的な学びを促す授業とＩＣＴの活用をつなげたカリキュラムの研究開発。
3　上記取組項目の具体的実践内容	(1) 校外の研修への積極的な参加と、そこで得た成果の共有化。 (2) 授業公開を活用したスキルの共有化。 (3) 教科内でのデジタル資料の共有化。 (4) カリキュラムの研究開発と成果の蓄積。
4　目標達成度の判断・判定基準・指標	(1) 研修参加者数の変化。 (2) 生徒の授業評価の活用。 (3) 教科内外での情報交換の活性化。 (4) 教材の開発と蓄積。

2　自己評価

〈1〉評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校評議員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

(1) 授業評価の結果

「授業内容の理解を深めるために、情報機器が活用されている」という項目の評価が、令和元年度７月の調査では「理科、英語、情報」以外は低かったが、令和２年度７月の調査では、ほぼすべての科目で評価が上がった。また、評価が下がったものは数科目しかなかった。

○大幅に評価５が増えた科目（例）

２年現代文 2.7% ⇒ 80.5%　２年日本史Ｂ 8.8% ⇒ 90.6%

２年数学Ⅱ 22.7% ⇒ 87.9%

○元々評価５が多かった科目（例）

１年物理基礎 81.2% ⇒ 82.9%　１年コミュ英Ⅰ 75.3% ⇒ 87.3%

(2) 職員研修会の実施

ＩＣＴ活用に関する職員研修会を複数回実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、密になるような全体研修は避け、学年会やネットを活用しての研修会とした。

〈２〉今年度重点目標達成のための取組に関する評価　　(評価基準 A;十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分)

評価の視点及び評価の理由	評　価
(1) ＩＣＴを効果的に利用するスキルの向上 新型コロナウイルス感染拡大（第１波）による４月～５月の休校期間中、ほぼすべての科目でオンライン授業を行った。また、第３波の影響を大きく受けた１２月～２月は、必要に応じて授業をオンライン配信し、新型コロナウイルスの影響で登校できない生徒の支援を行った。特に３年生については、８回線を活用して、共通テスト後の特編授業をすべてオンライン配信した。このように、今年度はＩＣＴの活用が一気に進み、スキルも飛躍的に向上した。	[A] B C D
(2) 生徒の主体的な学びを促す授業とＩＣＴの活用をつなげたカリキュラムの研究開発 ＩＣＴの活用により、生徒が能動的に活動する時間が増えた。また、２月には生徒一人一台タブレットが実現し、総合的な探究の時間等でのタブレット活用を始めることができた。現在、学習支援ソフト MetaMoji の研修も進めており、今後はその他の授業でもタブレット活用し、生徒の主体的な学びをより促進していきたい。	A [B] C D
総　合　評　価	**A [B] C D**

〈３〉成果と課題

○ＩＣＴ活用に関する研修会（学年会等を含む）を複数回実施し、誰もが利用できるスキルの共有が進んだ。また、教科内外での情報交換が増え、教材の開発と蓄積も進んだ。
○ほとんどの教員が毎時間タブレットを使用して授業を行うようになり、生徒が能動的に活動する場面が増えた。
●従来の紙の教材とデジタル教材の使い分けを考えていく必要がある。
●ＩＣＴを活用するようになった分、通信（機器）の不調により授業が中断してしまうということが度々起こるようになった。ＩＣＴに頼りすぎないことも大切であると感じた。

〈４〉来年度へ向けての改善方策案

(1) 令和４年度からの新教育課程に向けて、教科内外の相互の交流をより促進し、デジタル教材と紙の教材をうまく組み合わせ、生徒の主体的な学びの促進を図りたい。
(2) ＩＣＴ機器の適正な管理に努めたい。また、ＩＣＴ機器が不調のときの対処法も考えていきたい。

＜２＞ 評価分野②：　生徒指導

１　今年度の重点目標と取組・実践内容

１　重点目標	生徒の自己有用感の育成
２　重点目標達成のための取組	(1) 月間生徒指導目標の掲示による、生徒の意識向上。 (2) 教育相談的配慮が必要な生徒についての全職員による共通理解の推進。 (3) 行事や生徒会活動等の充実と見直し。
３　上記取組項目の具体的実践内容	(1) ・挨拶や身だしなみをはじめとする生徒指導を全職員で行う。 ・交通安全協会と連携して、ＭＳリーダーズによる交通安全運動を実施する。 (2) ・教育相談係、担任や学年会、保健室、スクールカウンセラーの連携を図る。 ・心の健康に関する講話を実施する。 (3) ・行事や活動後に職員アンケートを実施して、内容の見直しを行う。 ・生徒会や委員会活動の充実を図るため、教員と生徒との連絡を密に行う。

4　目標達成度の判断・判定基準・指標	(1) 講話の感想、アンケート結果 (2) 迷惑調査結果、遅刻欠席統計 (3) ボランティア活動記録、アンケート結果

2　自己評価

〈1〉評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校運営協議会委員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

「生徒を対象とするアンケート結果」
《Ａ「よくあてはまる」＋Ｂ「ややあてはまる」の割合》　※（　）は前年度比
【生活指導・教育相談】
・本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。　７２％（－２０％）
・本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。　７０％（－２０％）
【特別活動】
・本校のホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている。　６９％（－１４％）
・本校では、部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。　６７％（－２１％）
・本校では、生徒会活動が活発である。　７１％（　－８％）
・本校では、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。　６１％（－１８％）

「保護者を対象とするアンケート結果」
【生活指導・教育相談】
・学校は高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。　６１％（－２０％）
・学校では個々の生徒の相談に丁寧に応じてくれる。　５４％（－１１％）
・学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。　５１％（－１３％）
【特別指導】
・学校では、部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。　６８％（－１７％）
・学校は、ボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。　４４％（－１８％）

※　生徒、保護者からの評価が昨年に比べて大きく下がった。昨年までは紙ベースで行っていたアンケートを今年度からＷＥＢベースのアンケートに変更したことによる影響（安易な回答、ＷＥＢデザインの影響等）も考えられるが、全般的に肯定的な評価が減り、否定的な評価が増えている。（分からないという回答も多い。）生徒や保護者に校内での取り組みについて知ってもらえるように努力する必要がある。

〈2〉今年度重点目標達成のための取組に関する評価　(評価基準 A;十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分)

評価の視点及び評価の理由	評　価
(1) ・生徒指導部月間テーマを掲示し、様々なテーマで生徒に意識の向上を促した。昨年度の反省を踏まえ、今年度はシンプルで見やすい掲示にし、生徒の目に付くようなものにした。 ・教員内で生徒指導への意識にかなり温度差があるように感じる。コロナ対策、身だしなみや挨拶指導等、すべての教員から生徒へ働きかけるよう協力をしてもらうことが課題である。 ・コロナ感染拡大状況の中で昼食時の黙食を呼びかけた。教師による呼びかけに生徒会執行部、各クラスの室長など多くの生徒が賛同し、どの学年も黙食を行うことができた。 ・３月の合格者オリエンテーションの際に入学生対象に情報モラルに関する説明を行い、意識の向上を促した。情報モラル違反で指導される生徒数は少なかったが、スマートフォンの使用時間が長い生徒が多くおり、引き続きスマホの使い方には注意させたい。 ・交通安全協会と連携してＭＳリーダーズによる交通安全運動を実施することができた。その他、毎年行っている弁天町花壇の花植作業や多治見駅前清掃活動も規模を縮小して実施することができた。	A　[B]　C　D

(2) ・教育相談係、学年会、保健室、スクールカウンセラーと連携をとり、情報共有を図ることができている。教育相談や支援の必要な生徒の早期発見、対応につなげることができている。	[A] B C D
(3) ・ボランティア活動の日程や役割分担の見直しにより、生徒の負担を軽減した。 ・生徒会執行部会を昼休みに昼食をとりながら行い、活動時間の確保に努めた。 ・執行部がTakitaCCPを自ら計画し、全校生徒に向けてコロナ対策の啓発活動をおこなった。	A [B] C D
総　合　評　価 生徒が安心して過ごせるような学校作りに教員だけでなく、全校生徒が協力的であった。いくつかの行事が中止、縮小となってしまったが生徒が前向きに一生懸命生活している。	[A] B C D

〈3〉成果と課題

○他者に対する思いやりの心をもつ生徒が多い。学校行事や生徒会活動を通して生徒の自己有用感を高めさせたい。
○昨年度に続き身だしなみ指導を行わなかったが、生徒は制服を正しく着こなすことができていた。
○セーラー服のスラックス導入が２年目を迎え、１、２年生の生徒数名が着用している。今後も着用する生徒が増えていくと思われる。
●情報モラルに関しては、ある程度意識を高めることができたが、生徒のスマホ等の使用時間については、年々増加傾向にある。生徒がスマホとの向き合い方について考えるよう継続して指導する必要がある。
●欠席、不登校の生徒が昨年に引き続き多い。その原因を探り、減少に向けて対策をしたい。
●教育相談的配慮の必要な生徒が多様化しており、さらなる指導支援体制の強化が必要である。

〈4〉来年度へ向けての改善方策案

・生徒会が主体的に取り組んだ活動に全校生徒が協力する姿は今年度の大きな成果であったと感じている。学校生活におけるルールやマナー等の意識付けなど、様々な場面でこれらが広がることを期待したい。
・悩みをもつ生徒や精神的に不安定な生徒が急増している。生徒指導部としてだけでなく、学校全体の問題として職員研修会等を実施する。

＜３＞ 評価分野③：　進路指導

１　今年度の重点目標と取組・実践内容

１　重点目標	キャリア教育の体系的な実施と，進路実現に寄与する学力向上の支援。
２　重点目標達成のための取組	(1)　キャリア教育を軸に，教育活動の体系化を進め，本校進路指導の強化を図る。 (2)　ＦＲＨ指定を活用したＴＫｔ，ＴＳＰ，ＴＧＰ実施を通して，生徒の知的興味関心の幅を広げ、多様な進路の可能性を実感させる。 (3)　新入試に対応する学力醸成に向け、ＩＣＴと受験産業講師の活用を励行する。

3　上記取組項目の具体的実践内容	(1)　3年間の進路行事の流れと，キャリア教育の体系を図示し共有する。 (2)　卒業生をはじめ，多様な外部人材を活用しながら各種講座の充実を図ることで，生徒の主体的な学びを促し，学習意欲を喚起する。 (3)　高大接続の動向について校外の研究会を活用して情報収集し，生徒の実態とのすりあわせを進めながら，進路実現に向けた最適な道を探り出す。 (4)　学年や教科との連携によって、生徒の学習課題を洗い出し、受験産業の講師を招聘した講座を効果的に実施して、意欲の喚起に繋げる。
4　目標達成度の判断・判定基準・指標	(1)　事業実施の充実とその効果の検証。 (2)　ＴＫｔ，ＴＳＰ，ＴＥＰ等の実施状況と生徒アンケートの参照。 (3)　学びの基礎診断。土曜開校等の参加状況。講座における生徒アンケート。

2　自己評価

<1> 評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校運営協議会委員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

コロナ禍１年目の昨年度よりも評価が大きく下がった。２年生の低評価が顕著である。保護者の「進路情報提供の場」「適切なアドバイス」に関する評価も低い。進路説明会説明会動画配信など情報提供の機会はかえって増えているが、ニーズに応えられていなかったり、先行きの不透明さへの不安払拭の働きかけが十分でなかったりすることを反省しなければならない。

<2> 今年度重点目標達成のための取組に関する評価

評価の視点及び評価の理由	評　価
(1)　変動する状況への対応が中心となり、体系化は十分に進まなかった。	A　B　[C]　D
(2)　ＯＢ学生をはじめ、昨年度よりも充実した取り組みを展開し、種々の知的な刺激を与えることができた。生徒の参加も意欲的であった。	[A]　B　C　D
(3)　ＩＣＴや進学指導重点校事業を有効活用し、多様な指導を展開できた。	[A]　B　C　D
総　合　評　価	A　[B]　C　D

<3> 成果と課題

○　ＩＣＴや外部人材を有効活用し、コロナ禍などで変動する状況に対処しながら、従来と遜色のないキャリア教育の成果を上げることができた。
●　入試を取り巻く情勢の変化や、入学定員の増加などに、的確に対応する必要がある。

<4> 来年度へ向けての改善方策案

(1)　ＩＣＴや外部人材の活用を推進し、生徒の実態把握に努めながらキャリア教育を展開する。
(2)　共通テストをはじめ、入試の方向性を分析し、新課程への対応も研究を進める。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月：　令和４年２月

[意見・要望・評価等]　　【　○高評価　　△要注意・検討　】

（1）教務関係事項

○意見１　コロナ禍も２年目となり、休校時のオンライン授業への対応、ＩＣＴの活用や行事の実施方法の変更など、その都度適切に対応できていた。また、ＩＣＴの活用は、対面による授業も大きく変化させていることが分かった。個人へのタブレット配付、持ち帰り指導も迅速に行われ、家庭で有効に活用できていたようだ。

△意見２　感染状況にもよるが、今後は登校できない不安（とくに学習に対する不安）を軽減させる支援をお願いしたい。

○意見３　ＩＣＴを活用した教育に関しては、教員の研修により、機器の使用に関するトラブルは減っている。

△意見４　ＩＣＴ関連事項の多くが導入初期の状態にあり、次々と新しい手法も出てきている。生徒に苦手意識を持たせないようにすることやコミュニケーション能力の成長を望めるよう工夫することも必要だ。

（2）生徒指導関係事項

△意見１　最近、街中でスラックスを着用している女子生徒を見かけることが増えてきた。本校でもスラックス着用を望んでいる生徒は少なくないと思う。セーラー服が壁になっているのではないか。地元の公立中学でも多様化に対応するために、来年度から男女ともブレザータイプに変更されると聞いた。伝統ある制服ということは理解しているが、時代に合った変化も必要ではないか。

△意見２　悩みをもつ生徒が急増していることに関しては、学校だけでなく、卒業生、有識者等、気軽に相談できるような方策を望む。

△意見３　成人年齢が 18 歳に引き下げられることにより、クレジットカードの契約に関することなど様々なトラブルが在学中にもおこりうるのではないかと危惧している。啓発活動をお願いしたい。

（3）進路指導関係事項

○意見１　コロナの影響で、名大や東大の見学会が中止になったことは残念であったが、卒業生の話を聞く機会や、受験体験記など、有意義な時間や資料が提供された。

△意見２　各方面で活躍する卒業生の存在は本校のメリットの一つだ。親や教員以外の大人から話を聞ける機会があることは、高校生が将来を考えるうえで気づいていなかった関心が目覚めるきっかけとなり、可能性を広げてくれる。入学してくる生徒の目標は大学進学でも、そこをゴールとしない指導や取組みをお願いしたい。

△意見３　著名な卒業生にオンラインで講演を依頼するなど、同窓会を通じて協力を依頼してはどうか。